

「都市計画道路田中笠窪線」及び 小田急電鉄による「(仮称)伊勢原総合車両所」 の建設計画に係る説明会



目次

1 小田急電鉄（株）の総合車両所建設計画について

- (1) 小田急電鉄の概要
- (2) 大野総合車両所の現状
- (3) 移転先候補地
- (4) 総合車両所を活用した地域貢献施策イメージ（案）
- (5) 事業完了までの流れ
- (6) 今後のお願い事項

2 都市計画道路 田中笠窪線 整備事業について

- (1) 田中笠窪線の概要
- (2) 整備検討区間
- (3) 市道81号線との接続部（案）
- (4) 事業完了までの流れ

3 伊勢原市のまちづくりと連携協定について

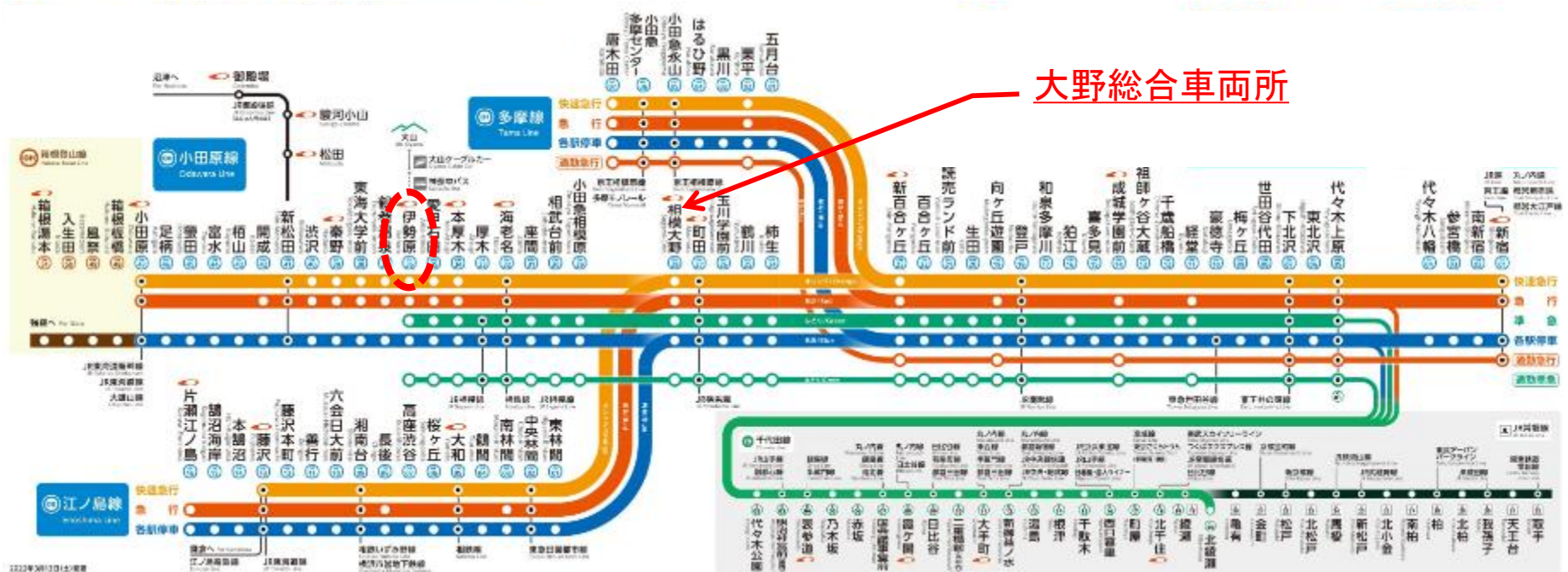
- (1) 都市マスタープラン[既存ストックと広域交通ネットワークを生かした活力を生む都市づくり]
- (2) 期待されるまちづくりへの波及効果
- (3) 持続可能なまちづくりを推進する連携協定
- (4) 全体スケジュール（想定）

1 小田急電鉄(株)の総合車両所建設計画について

1-(1) 小田急電鉄の概要

新宿を起点に、箱根の玄関口である小田原までを結ぶ「小田原線」、湘南エリアに至る「江ノ島線」、多摩ニュータウンに至る「多摩線」の3路線、計120.5km（全70駅）からなり、通勤・通学や観光路線として、2021年度は1日約159万人のお客さまにご利用いただいています。

市内駅：伊勢原駅（一日当たりの乗降人員39,806人）



本日は、鉄道運営に欠かせない大野総合車両所の移転計画についてご説明させていただきます。

1-(2) 大野総合車両所の現状

【大野総合車両所の概要】

◇ 位置

相模大野駅に隣接

◇ 開設

1962年(経年60年)

◇ 車両所の主な業務

- ①車両細部の大がかりな検査(全般検査、重要部検査等)
- ②車両の日々の点検・整備(列車検査、車両清掃、車輪削正等)

◇ 従業員数

約300人(協力会社を含む)



課題

- ・施設・検査用設備機械が老朽化
- ・開設当時主力である4両編成を前提した施設であるため、
現行車両規格(10両編成)では、車両分割や一部屋外作業を伴う非効率な検査

機能更新が急務である中、小田急電鉄における唯一の総合車両所であり、年間を通じて稼働していることから、現敷地内ではなく新築移転が必要

1-(2) 大野総合車両所の現状

工場内の設備について

天井クレーン: 車体と台車を分離させます。



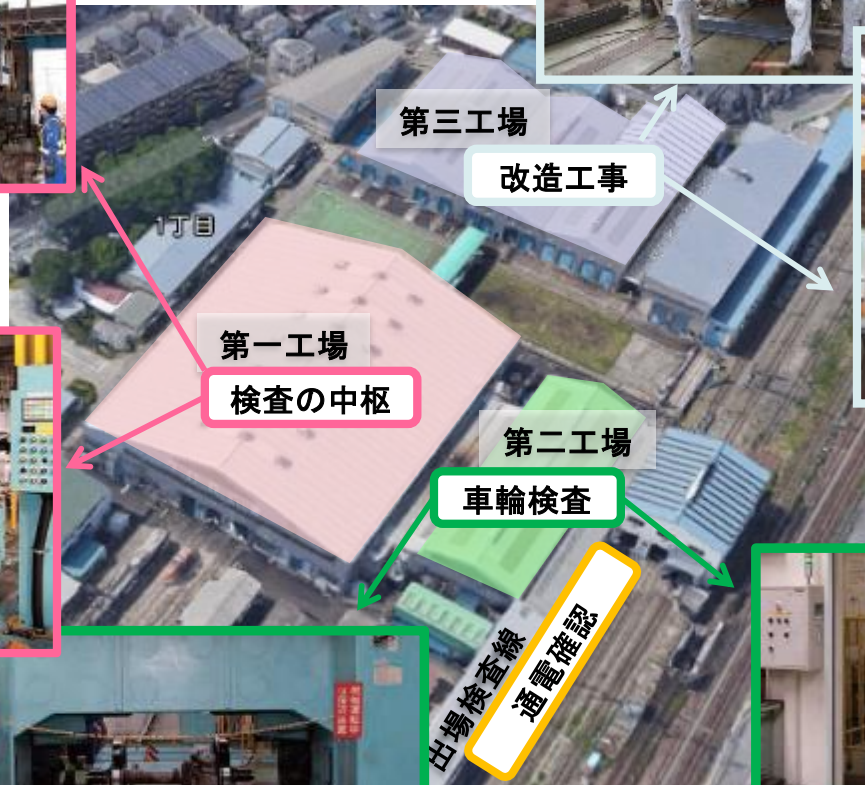
台車組立装置:

車体を支える台車に支持装置や車輪を取り付ける際に使用します。



車両改造:

細部まで分解を行い、車両の設備を最新にアップグレードします。



車輪旋盤: 車輪の傷を削り、乗り心地を向上させます。



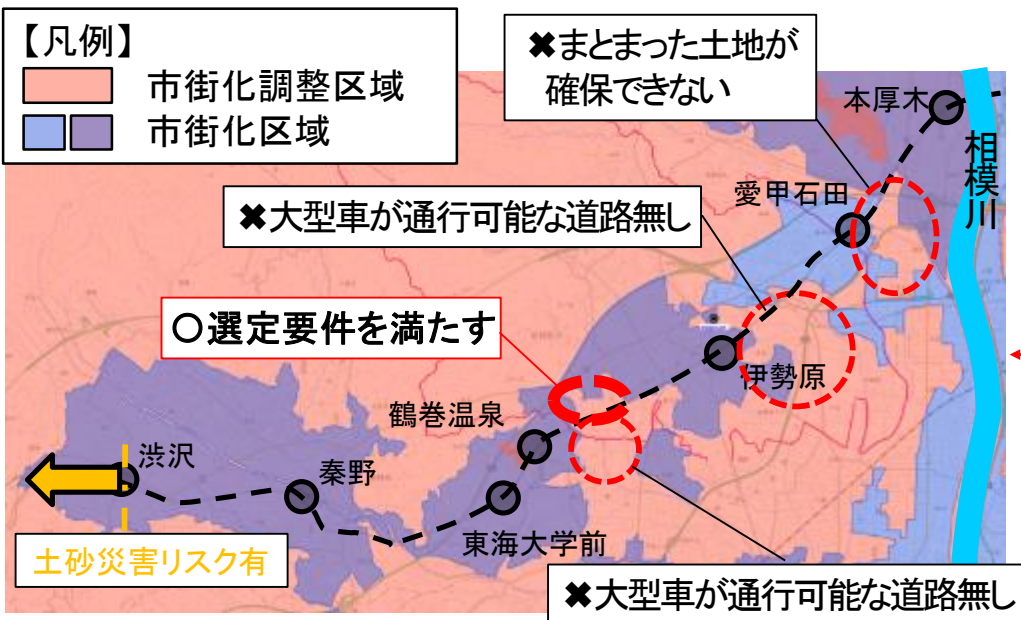
車輪回転試験:

車輪を疑似的に走らせ、発熱、異音、振動の有無を検査します。

1-(3) 移転先候補地

選定要件

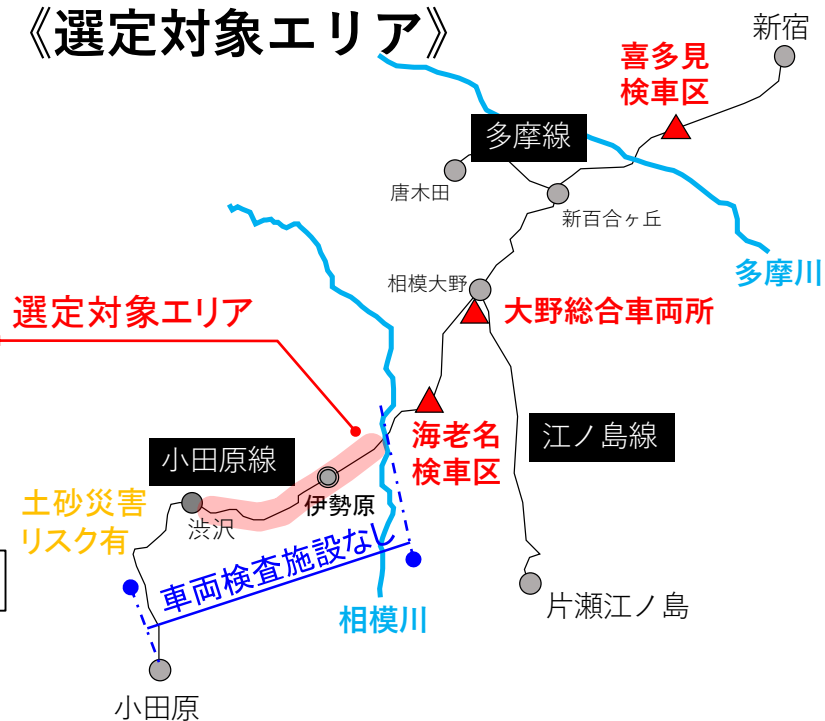
- 敷地の形状
 - ・小田急線に隣接し、長手方向に約700m、幅約250m 確保可能な平坦地
- 道路配置
 - ・大型車が通行可能な道路ネットワークに接道
- 社会的影響を考慮
 - ・市街化区域内に敷地要件を満たす未利用地がないため、市街化調整区域
- 災害リスク
 - ・昨今激甚化する自然災害リスクを考慮



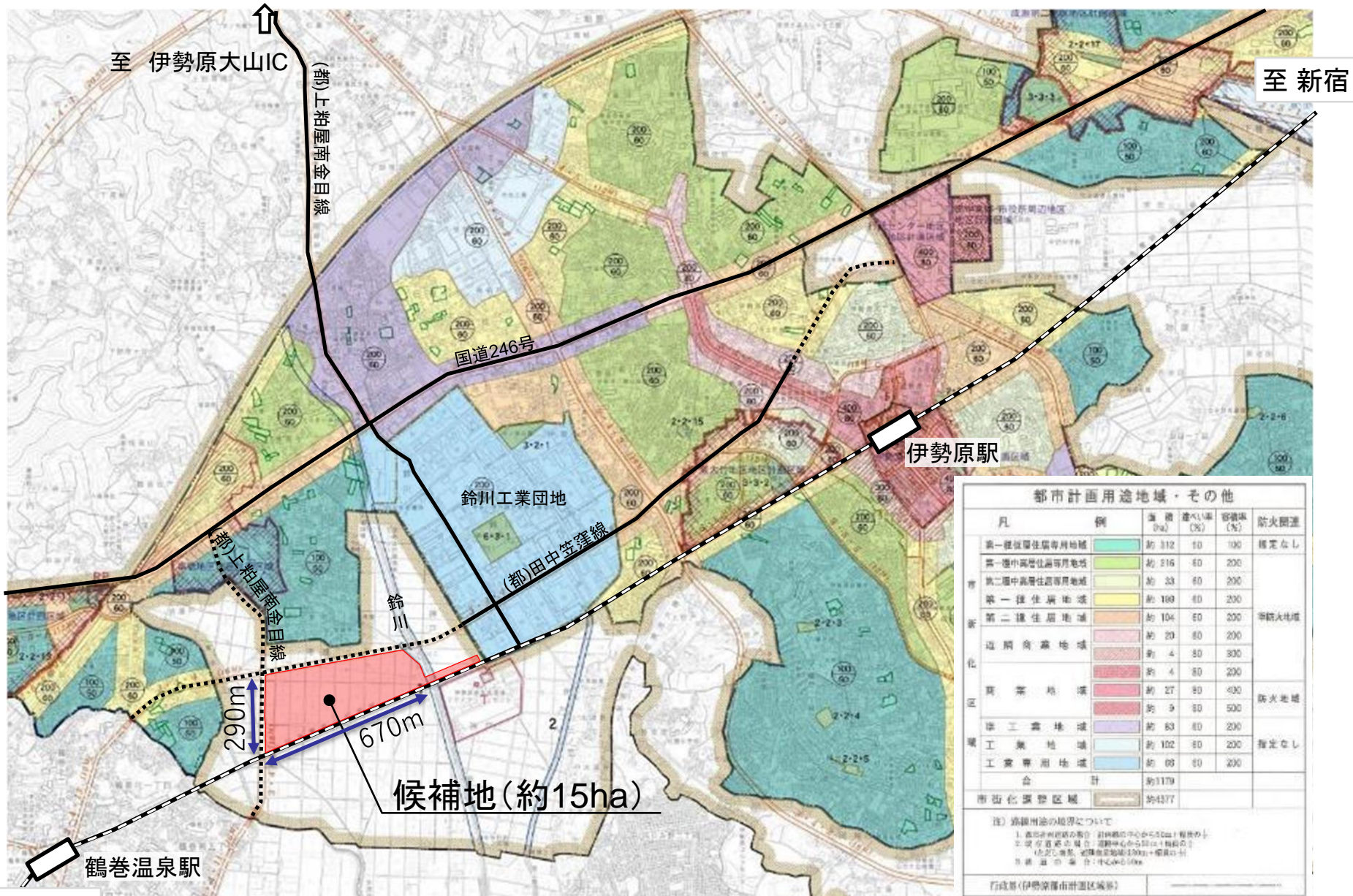
⇒適地は伊勢原市

「串橋地区※一部笠窪地区、神戸地区」のみ

《選定対象エリア》



1-(3) 移転先候補地



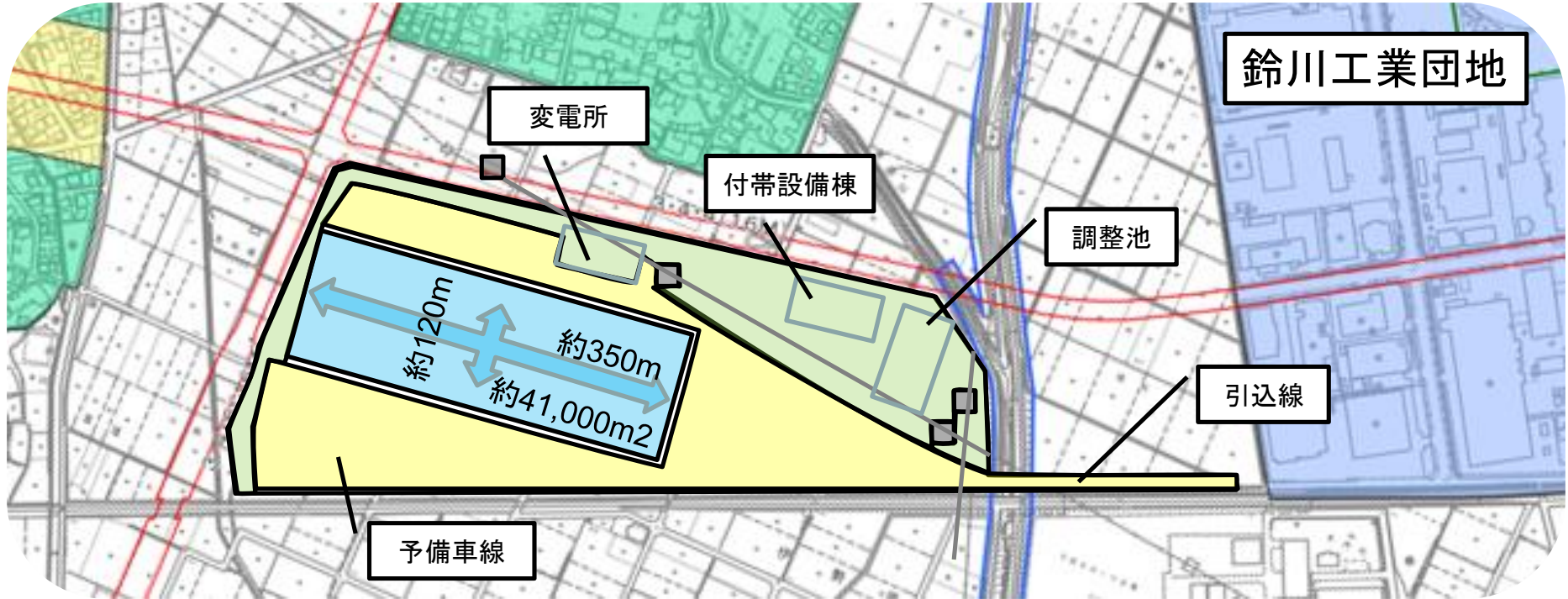
凡	例	面積 (ha)	容積率 (%)	防火圏差	
市	第一種低層住居専用地域	約 312	50	100	指定なし
	第二種中層住居専用地域	約 516	50	200	
	第三種中層住居専用地域	約 33	50	200	
	第一種生業地域	約 189	50	200	
	第二種生業地域	約 104	50	200	消防火地域
市	近隣商業地域	約 20	50	200	
	商業地域	約 4	50	300	
区	商業地域	約 4	50	200	
	商業地域	約 27	50	500	防火地域
	第三種地域	約 9	50	500	
町	工業地域	約 63	50	200	
	工業専用地域	約 102	50	200	指定なし
合計		約 1179			
市街化調整区域		約 4377			

注) 諸種用途の境界について
 1. 市街化調整区域の境界は、計測精度中心から50m+幅員の1/2
 2. 商業地域の境界は、道路幅員から50m+幅員の1/2
 3. 防火地域、消防火地域は、幅員から50m+幅員の1/2
 4. 防火圏差は、幅員から50m+幅員の1/2

行政界(伊勢原市市界区域界)

1-(3) 移転先候補地

総合車両所配置イメージ(案)



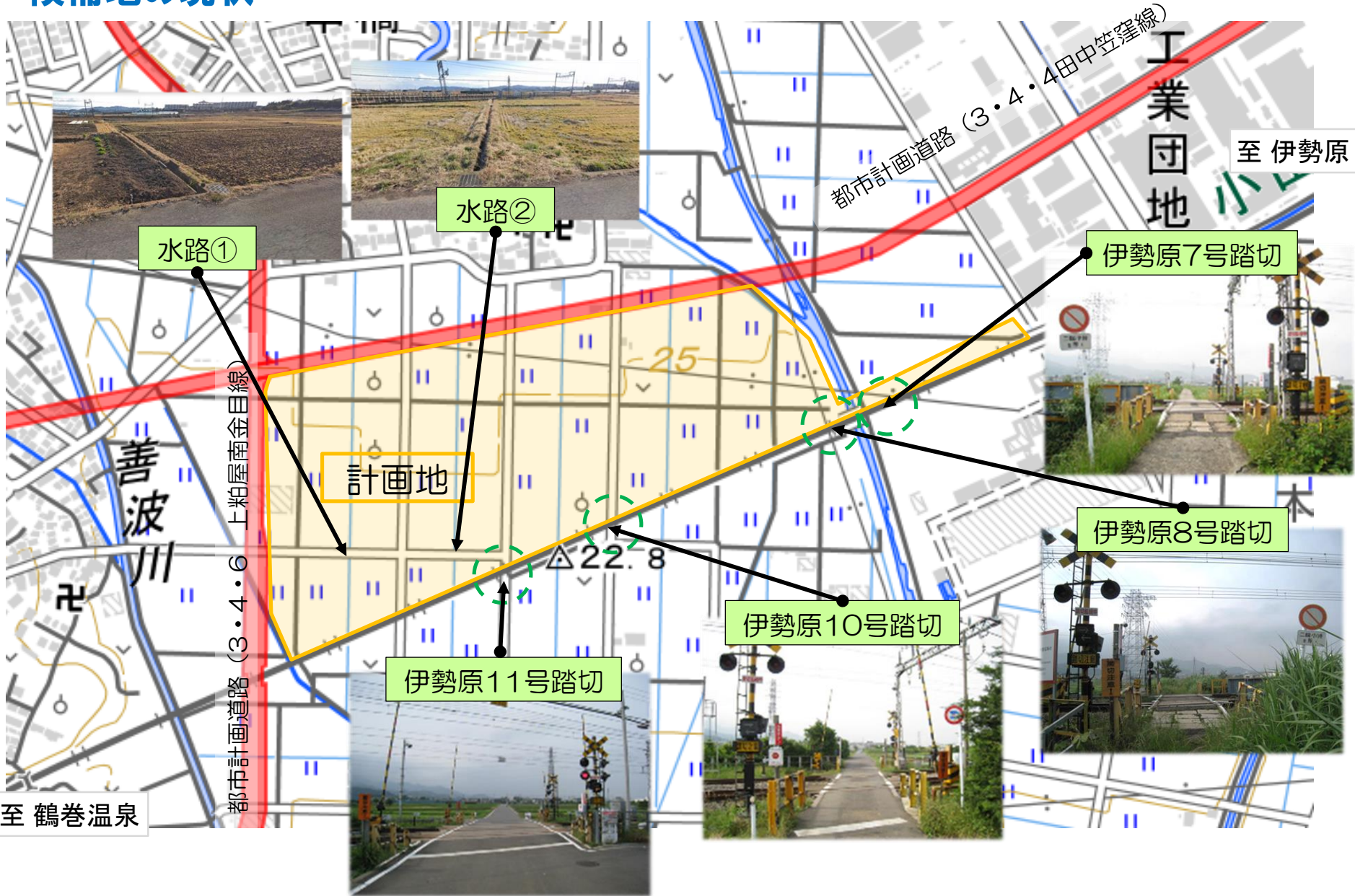
【凡例】

- 総合車両所
- 付帯線路(引込線、予備車線)
- 付帯設備(調整池、緑化含む)
- 都市計画道路(計画)
- 東電鉄塔・高圧線

※既存市道・農道・農業用水路・線路横断機能の切り回し
計画については、今後関係者と協議を進めてまいります。

1-(3) 移転先候補地

候補地の現状



1-(4) 総合車両所を活用した地域貢献施策イメージ(案)

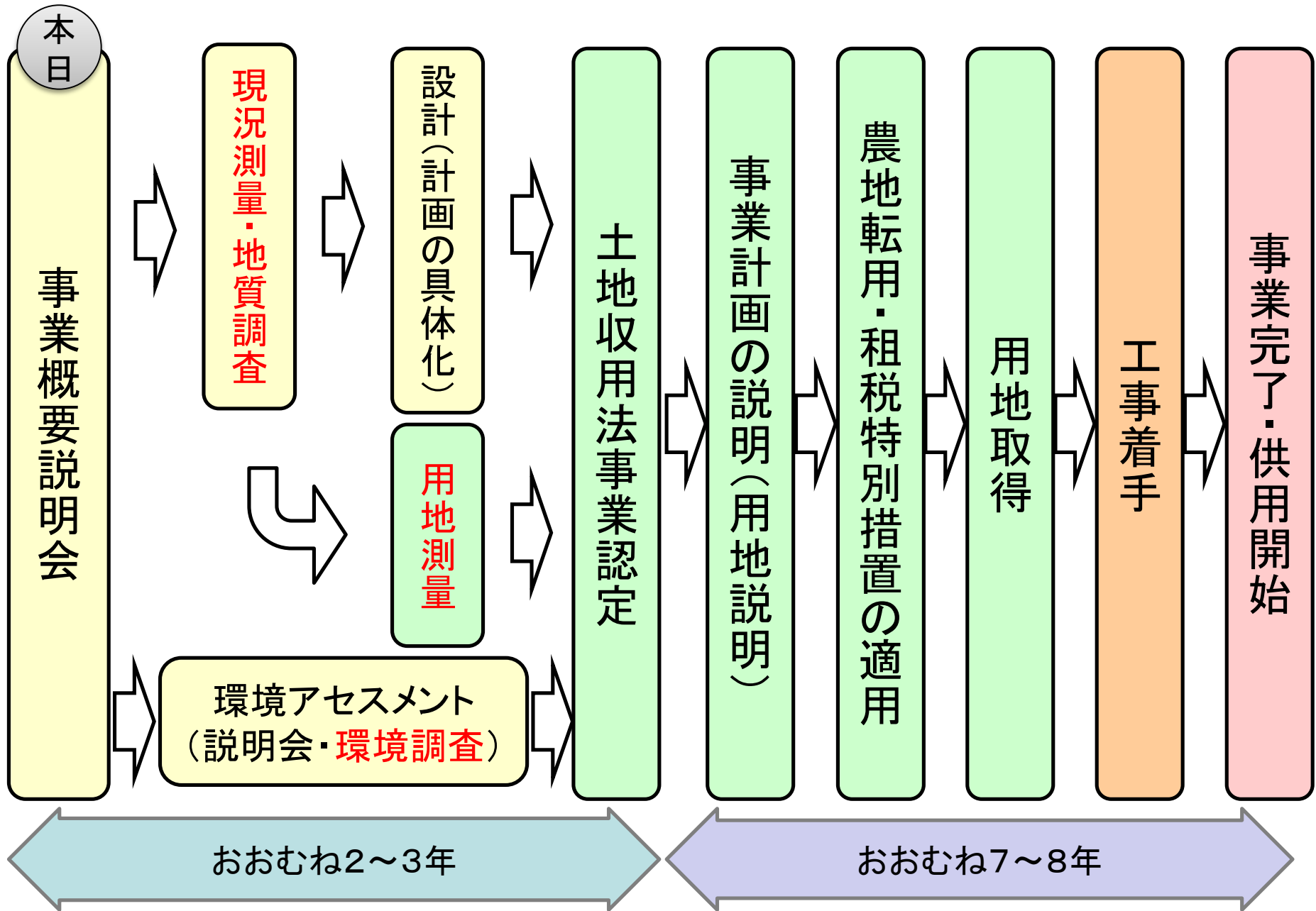
- ・地域の学校と協力した課外授業
- ・親子、学生を対象とした体験教室



- ・地域や自治体と連携した防災体制の整備



1-(5) 事業完了までの流れ



1-(6) 今後のお願い事項

- ・ 現況測量、地質調査

詳細な設計を行うために現地状況を調査します。

- ・ 用地測量

事業で必要となる土地の面積を求めることや境界を確認することを目的に行う作業です。

- ・ 環境調査

環境に与える影響を予測・評価するために行う調査です。

作業に際しては敷地内に立ち入らせていただく場合がございます。

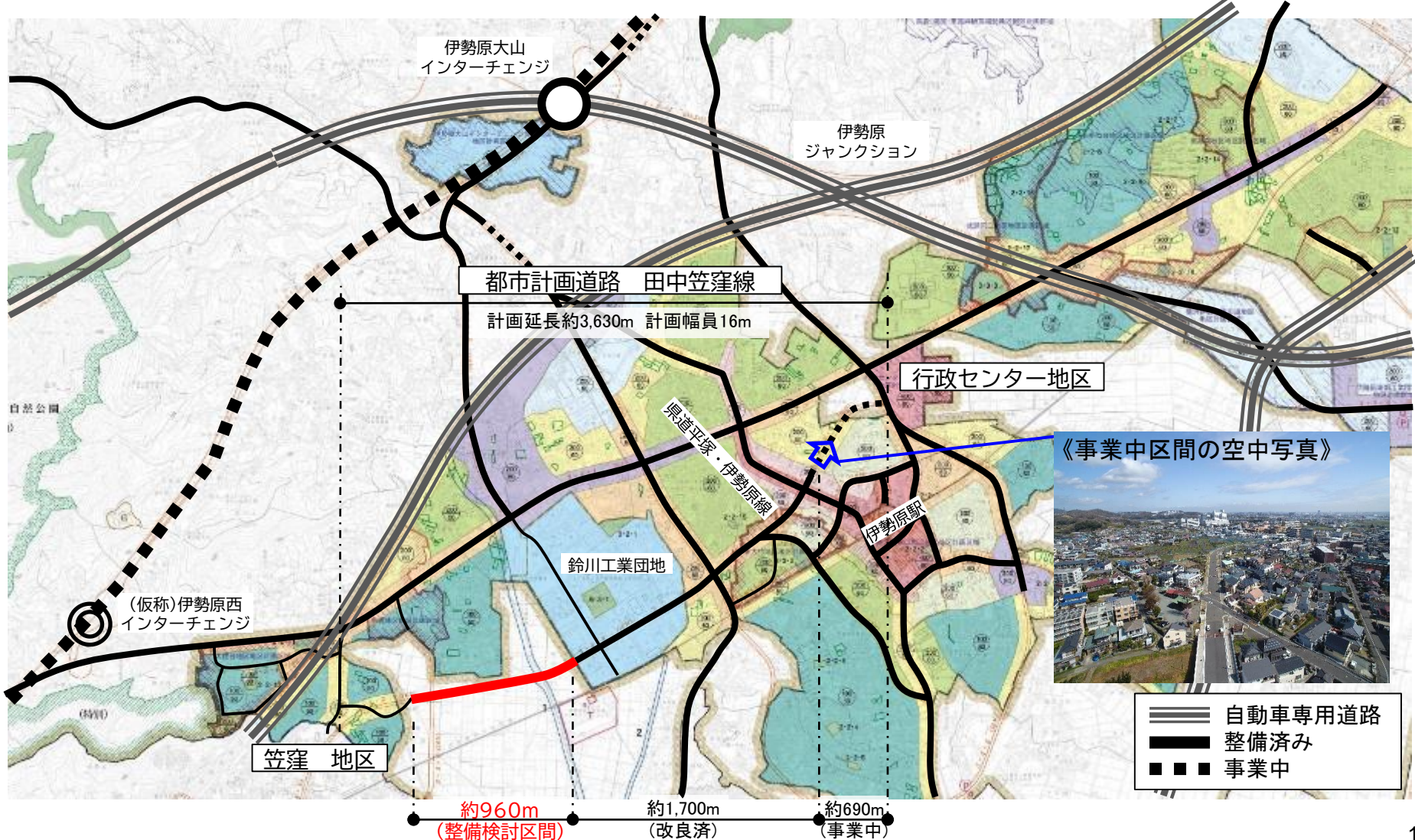
敷地内に立ち入る際には、お声がけ等をいたしますので、ご協力をお願いいたします。



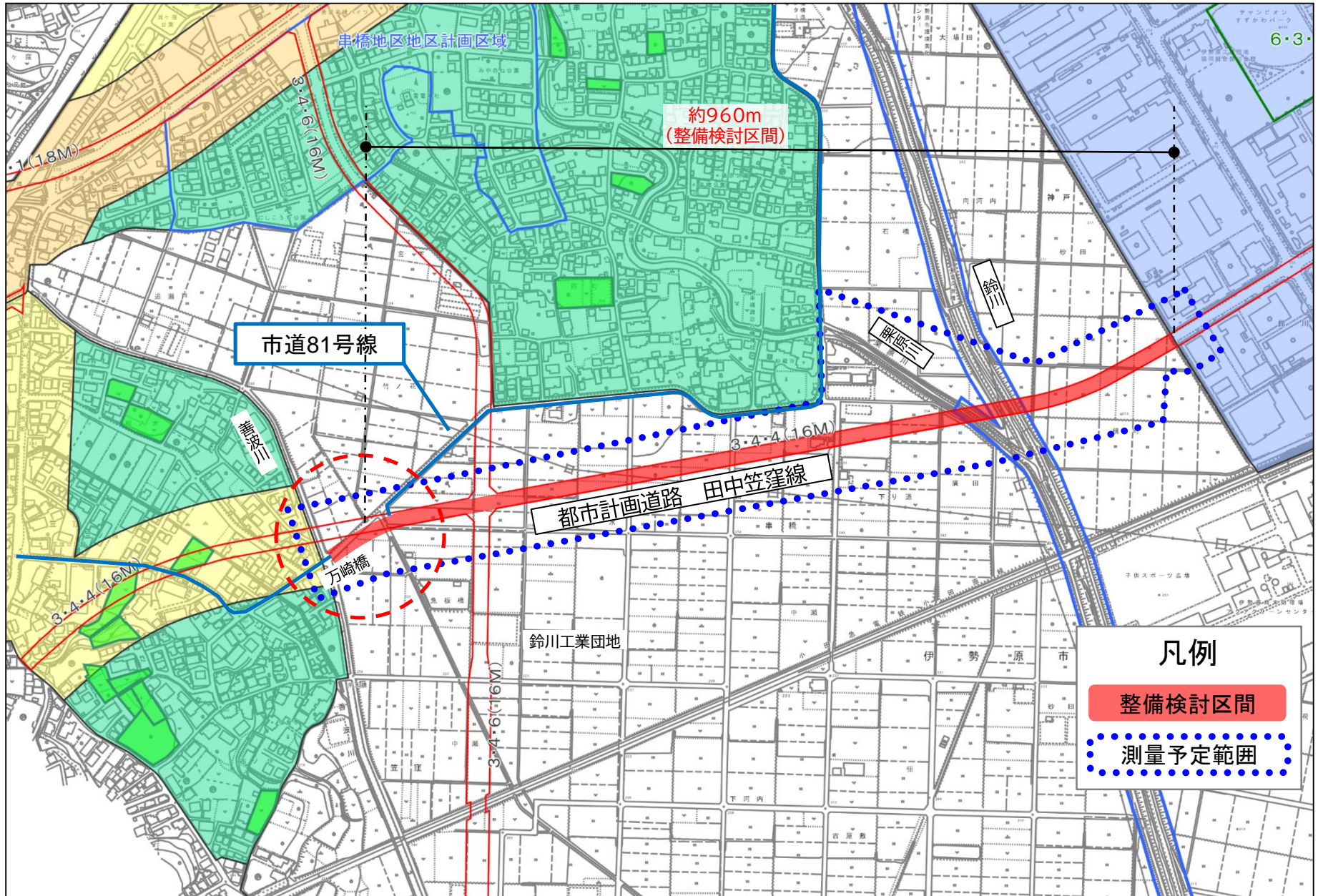
2 都市計画道路 田中笠窪線 整備事業

2-(1) 田中笠窪線の概要

- 市内の東西交通を支える重要な路線である田中笠窪線は、新東名高速道路の全線開通による市内の新たな交通需要が見込まれる中、早期の機能発揮が必要



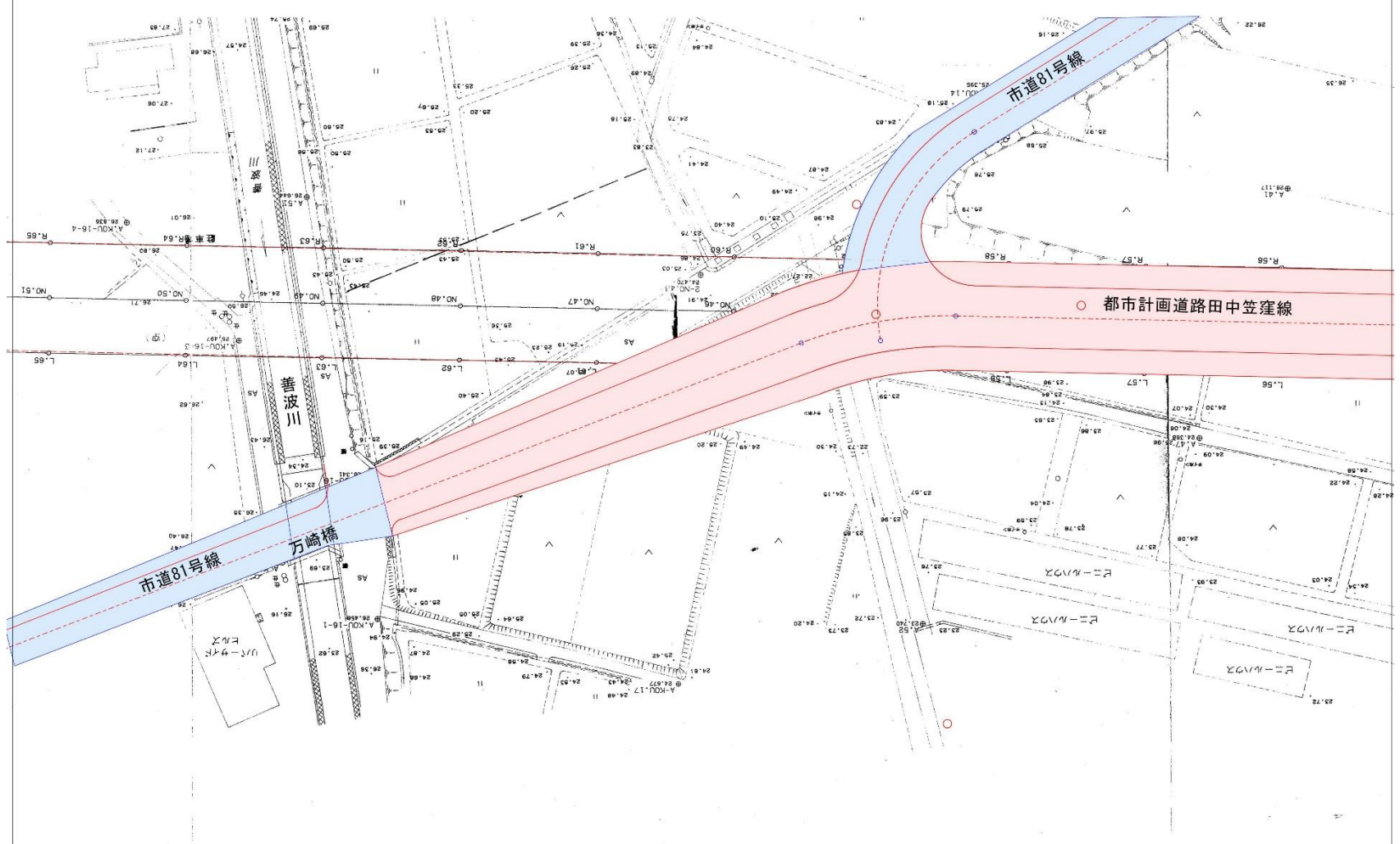
2-(2) 整備検討区間



2-(3) 市道81号線との接続部(案)

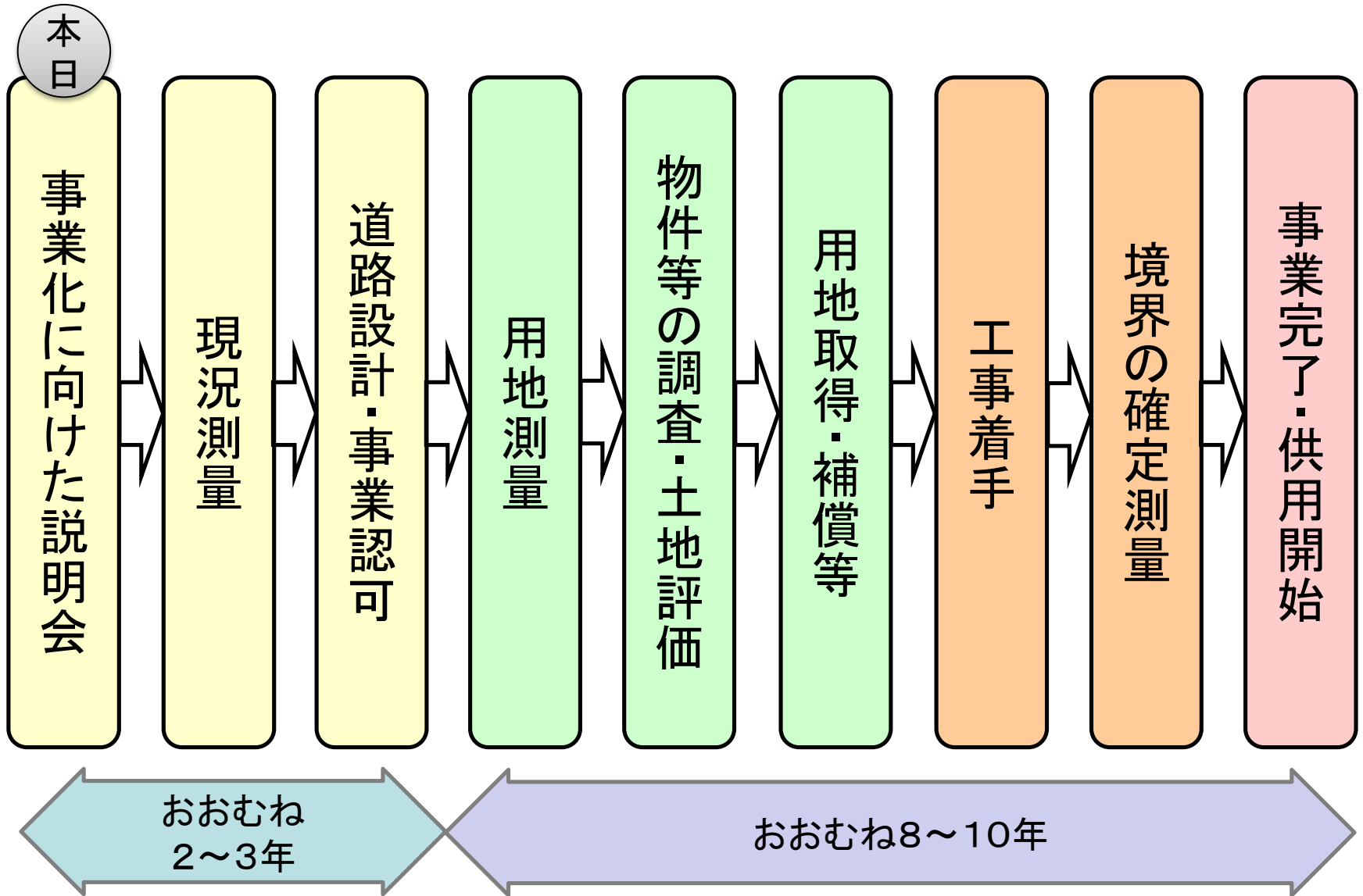
都市計画道路田中笠窪線と市道81号線 接続部詳細図

S=1:500



※現時点の案となるため、今後、警察協議等を進めていく中で変更になる場合があります。

2-(4) 事業完了までの流れ

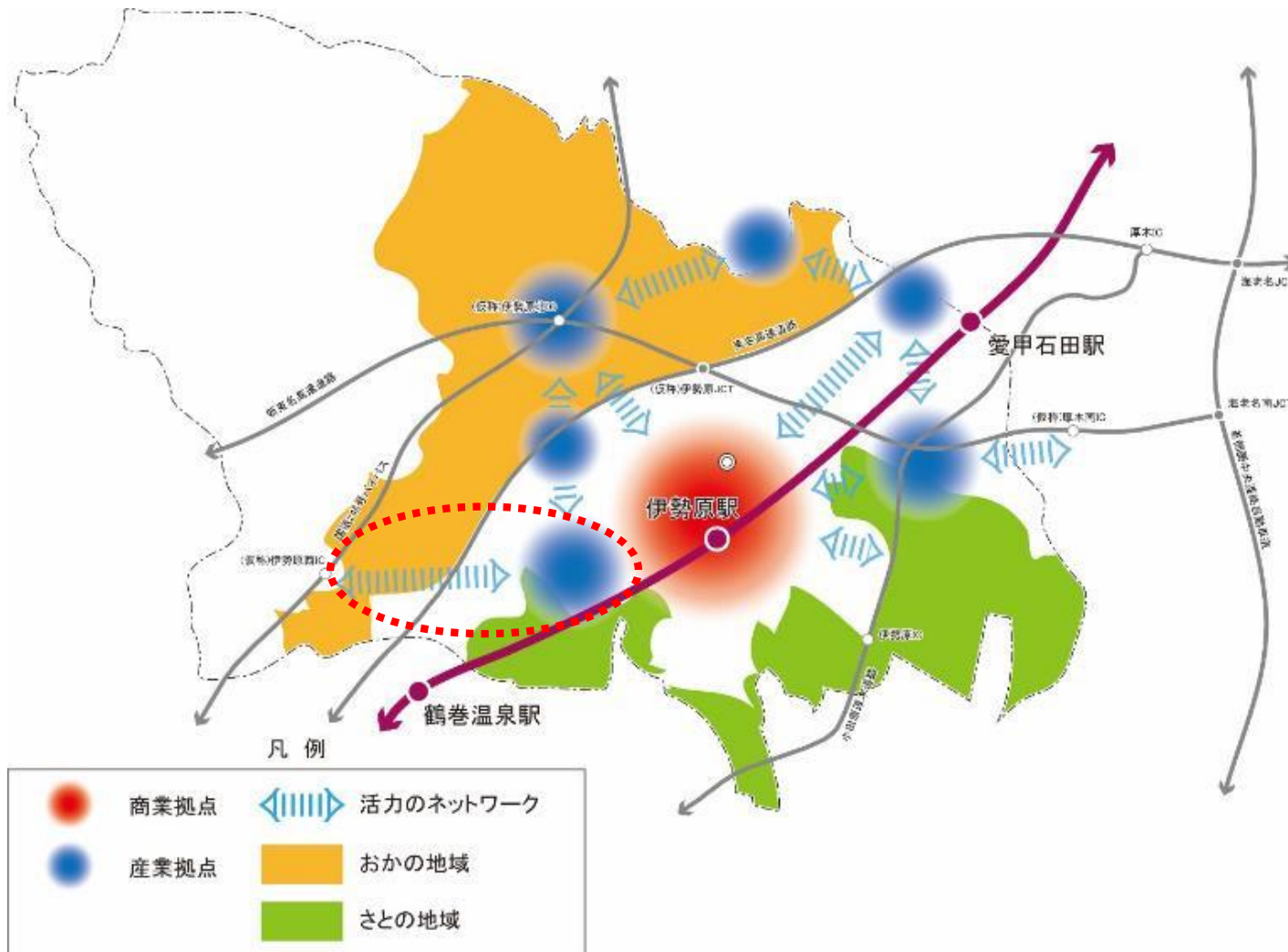


3 伊勢原市のまちづくりと連携協定について

3- (1) 都市マスタープラン [既存ストックと広域交通ネットワークを生かした活力を生む都市づくり]

未来図2 - 活力ある都市

既存産業の活性化や新規企業の立地などにより、「ひと」や「もの」の動きが活発になっています。また、就労の場が充実し、未来へ向かう活力にあふれています。

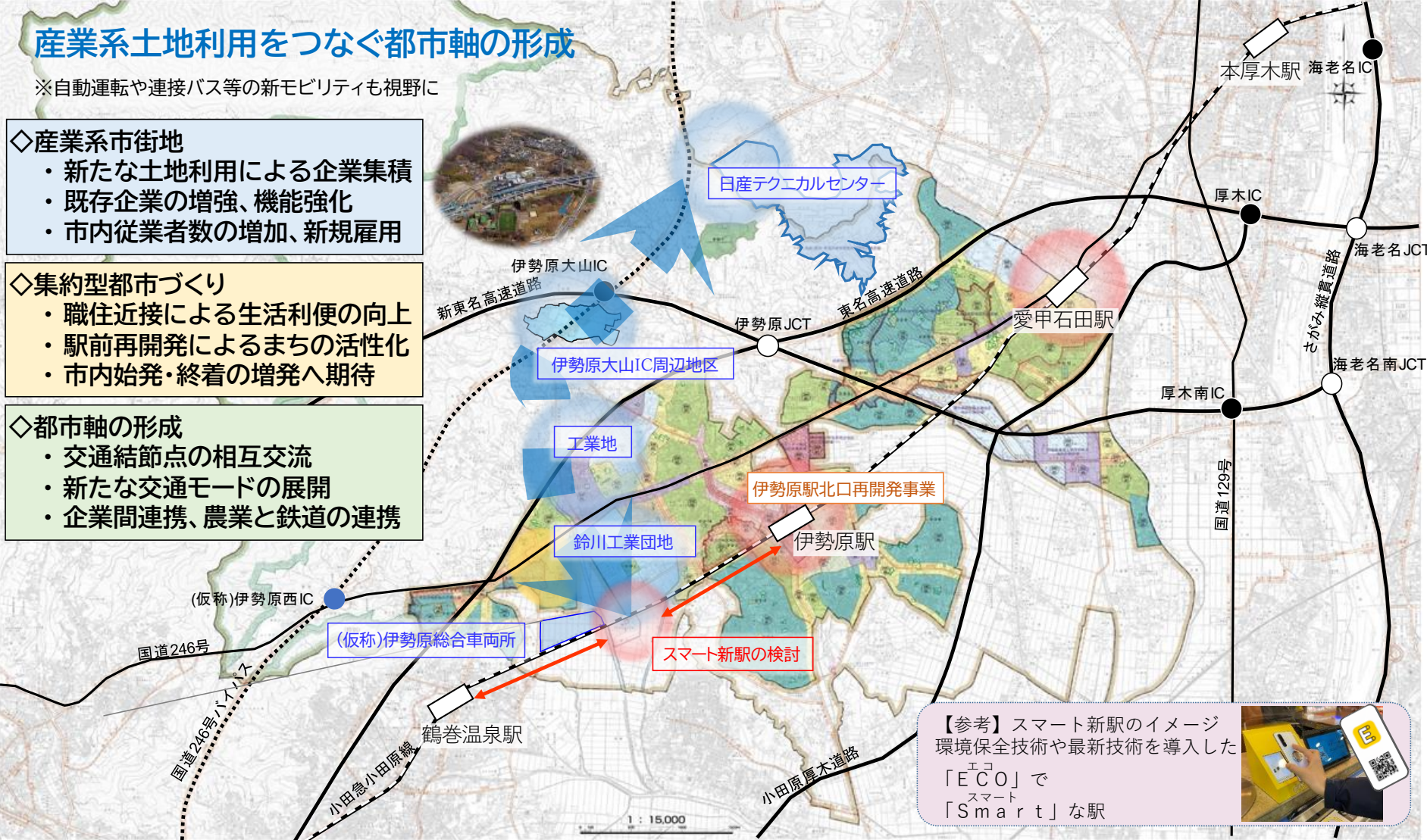


3- (2) 期待されるまちづくりへの主な波及効果

産業系土地利用をつなぐ都市軸の形成

※自動運転や接続バス等の新モビリティも視野に

- ◇産業系市街地
 - ・新たな土地利用による企業集積
 - ・既存企業の増強、機能強化
 - ・市内従業者数の増加、新規雇用
- ◇集約型都市づくり
 - ・職住近接による生活利便の向上
 - ・駅前再開発によるまちの活性化
 - ・市内始発・終着の増発へ期待
- ◇都市軸の形成
 - ・交通結節点の相互交流
 - ・新たな交通モードの展開
 - ・企業間連携、農業と鉄道の連携

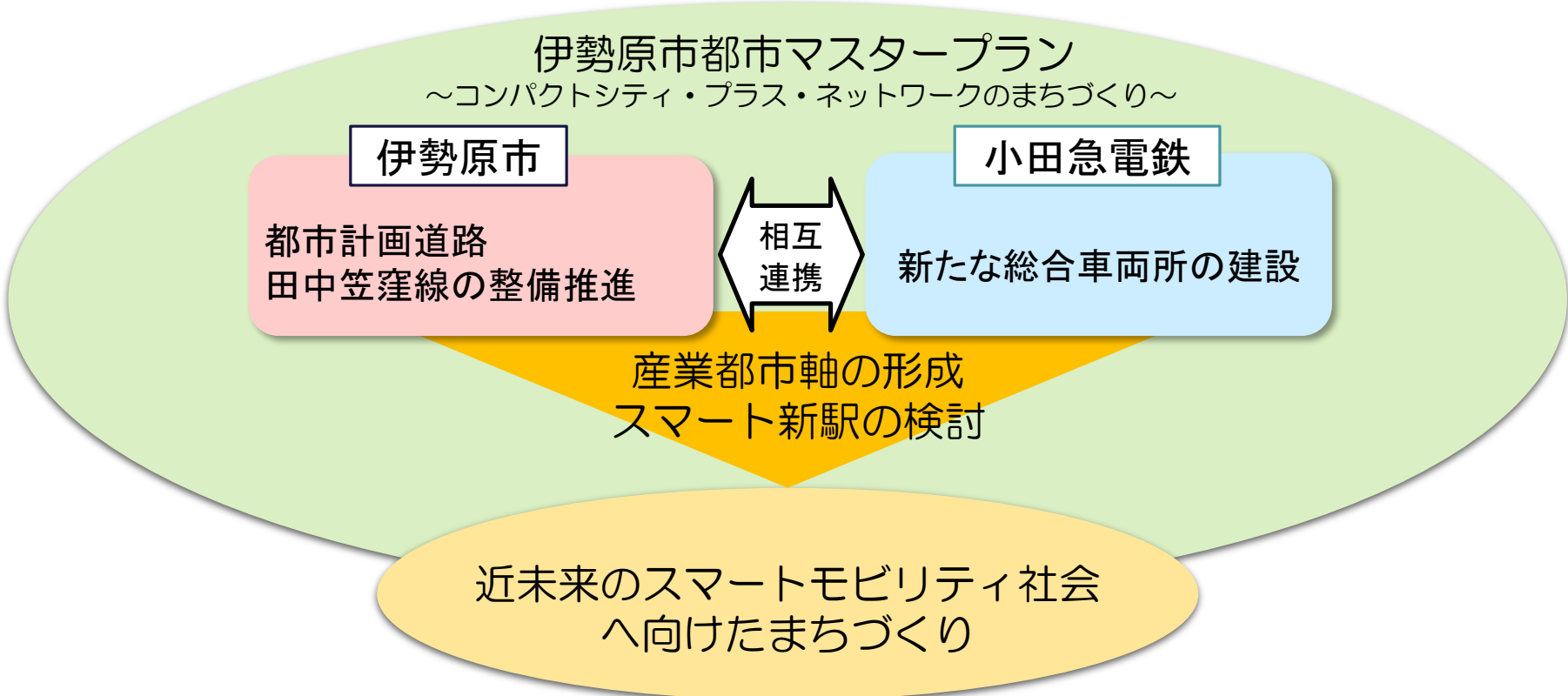


【参考】スマート新駅のイメージ
 環境保全技術や最新技術を導入した
 「ECO」で
 「Smart」な駅

3- (3) 持続可能なまちづくりを推進する連携協定

➤ 伊勢原市と小田急電鉄(株)において連携協定を締結予定

新たな総合車両所の建設計画と、都市計画道路田中笠窪線整備事業が相互に協力し連携を図るとともに、これらの事業を契機とした産業都市軸の形成やスマート新駅の検討など、伊勢原市と小田急電鉄(株)がパートナーシップにより近未来のスマートモビリティ社会へ向けた持続可能なまちづくりに取り組む



3-(4) 全体スケジュール(想定)

